



第14回 KIM/JIM シンポジウム開催報告

京都大学教授 辻 伸 泰

日本金属学会(JIM)と韓国金属・材料学会(Korean Institute of Metals and Materials: KIM)とが合同で開催しているKIM-JIMシンポジウムの第14回を、日本金属学会2013年秋期講演(第153回)大会の第1日目(2013年9月17日(火))に、金沢大学角間キャンパスで開催いたしました。今回は、筆者と韓国・延世大学(Yonsei Univ.)の李 榮国(Young-Kook Lee)教授が世話人を務め、“Advances in Fundamental Research on Structural Metallic Materials”のタイトルで、構造用金属材料に関する研究の最新の進歩に焦点を絞って開催しました。今回は、双方から若手研究者を中心に6名ずつの講演者を指名し、1件あたり質疑応答を含めて30分間の時間を取って、じっくりと議論を行うこととしました。

開催前日の9月16日(月・祝)に台風18号の影響で日本側数名が到着できず、懇親会の開催が危ぶまれましたが、韓国側は無事到着し予定通りJapanese hospitalityを持って懇親会を開催しました。実は筆者も、京都の居住地区に避難勧告・指示が出て一時避難するなどしておりました。本会会員諸氏におかれても、この日のご移動には苦労された方々が多かったのではないかと拝察します。幸い筆者は、最終特急で何とか午前様ではありますが金沢に到着し、9月17日のシン

ポジウムには朝から出席することができました。

9月17日は台風一過の快晴でした。交通の乱れによる到着時間の遅れなどで若干のプログラム入れ替えを行いました。司会者・ご講演者の機敏なご協力、非常にスムーズに進行することができました。シンポジウムには若手・院生を含む多数の聴衆にお集まりいただき、多種類にわたる構造用金属材料の興味深い講演発表に対して、活発な討論が行われました。講演内容の詳細については、講演概要集をご参照願います。構造用金属材料の現在の課題はさらなる高強度化と軽量化、そして強度だけでなく、延性・靱性や電気伝導性、さらにはリサイクル性といった複数の機能の両立であると思えます。そのために、新しい材料ナノ解析手法や計算材料科学を活用しながら、基礎に立ち返って原理原則を追求する研究が多かったと思います。

今回、上記のような不測の災害に際しても、関係者のご協力によって平常時とほぼ同様のシンポジウム運営を行えたことには、不肖世話人として心より感謝するとともに、日本側の学会運営の底力を見た思いで、大変感激いたしました。また、韓国側出席者からは多くのお見舞いの言葉をいただくとともに、非常に協力的にシンポジウムに臨んでいただいたことを、心より御礼申し上げます。ご協力・ご助力いただいた関係者の皆様にこの場を借りて御礼申し上げるとともに、我が国の誇るべき金属学会コミュニティの発展と、韓国をはじめとして、国際的に同じ分野で活動する研究者にもそうした連帯を上げていくことの重要さを強調して、KIM-JIMシンポジウムの報告とさせていただきます。図1には、シンポジウム終了後に会場で撮影した、講演者および聴衆の皆様との集合写真を示します。

(2013年10月13日受理)[doi:10.2320/materia.52.581]

(連絡先：〒606-8501 京都市左京区吉田本町)



図1 シンポジウム終了後の集合写真。